

【別添2】(様式例2)

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 | 29

I 自己評価

1 学校教育目標	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨として、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で、多様な進路の実現を図ります。														
2 評価する領域・分野	◇学校経営														
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・昨年度と比較して、満足度が下回った項目は1項目もない。また、満足度が80%を上回った項目が、8割を超える。しかし、『家庭との連携』や『学校行事』の部活動の活性化については、不満足度が30%近くあり、大きな課題である。														
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 生徒の実態や時代の変化に即した、活力ある学校経営の推進に努める。														
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 単位制のメリットを生かした5つの類型による教育課程を周知し、将来の進路希望に合った科目選択ができるようにする。 ② 授業交流や教員交流等を通して、不破郡内の中学校との連携強化に努める。 ③ 積極的に広報活動を推進し、学校の教育活動を地域社会等にアピールする。														
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
(1) キャリア教育の充実による、個に応じた進路指導を徹底する。 (2) コミュニケーション能力の向上につながる具体的な取組を実施。(ワークショップ等) (3) 地域との積極的連携(垂井町との連携)	(1) 将来の進路希望に合った類型の選択 (2) 生徒の50%を不破郡内の中学校卒業生で占める (3) マスコミへの積極的な情報提供/H Pの充実/メール配信システムの活用														
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価													
① LHR 及び総合的な学習の時間(FST)におけるガイダンスや外部講師を活用した進路学習等の充実。 ② 中学校訪問をより広範囲かつ組織的に実施する。 ③ マスコミへの積極的な情報提供やH Pの刷新、メール配信システム登録の徹底を図る。	① 計画的かつ系統的なFSTが実践できたか。 ② 郡中学校教科研究会への参加地域行事への参加ができたか。 ③ 学校の教育活動を積極的に発信できたか。	<table border="1"> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		(A)	B	C	D	A	(B)	C	D	(A)	B	C	D
(A)	B	C	D												
A	(B)	C	D												
(A)	B	C	D												
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部リソース活用研究事業により、学校職員以外の外部講師の活用により、キャリア教育が充実した。文部科学大臣賞受賞につながった。 ○ 垂井町との連携協定の締結をはじめ、地域との積極的な交流が図られた。 ▲ 本校の教育活動を、より広範囲かつ効果的に周知する必要がある。 		総合評価 (A) B C D												
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観及び学校説明会等、従前の連携・交流に加えて、不破郡内の中学校との連携強化の方法を検討し実施する。 ・ 積極的な広報活動の継続、垂井町をはじめ、地域との広範囲かつ継続的な連携を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒募集につながるシステムの改革をする。 														

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のためを思っの多くの働きかけは、素晴らしい。 ・ 資格があると有利なので、取れる資格はぜひ取得させるとよい。資格を単位として考えてはどうか。 ・ 親同士の会話が大切で、来校した親に不破高校のよさをアピールし、その親が中学生の親に話をするというかたちで、志願者が増えるのではないか。学校と保護者の意志疎通を図ることが大切だ。 ・ 部活動の加入者の減少は問題である。部員勧誘の工夫が必要だ。

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価の合計は、生徒はすべての項目が90%以上で、保護者はすべての項目が80%以上であった。 ・生徒は、「一人一人の能力に応じた指導を行っている」の項目では、満足度が97.9%と、高く評価している。 また、「総合的な学習の時間の内容は自分にとって有意義である」は93.7%で、昨年度比12%増であった。 ・保護者は、「学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」という項目では、93%と最も高く評価している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎・基本の定着と、授業を大切にする主体的な学習態度の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校活性化プログラムによる授業研究	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、義務教育段階までの学び直しを行うとともに、具体的な到達目標を定め指導内容の重点化と教材の精選を進める。 (2) 生徒の興味・関心を喚起し、成就感・達成感が得られるよう指導方法を工夫するなど魅力ある授業づくりに努める。 (3) 個々の生徒の学習過程を大切にし、適切な評価を工夫するなど個を生かした指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎学力の充実及び学習意欲の喚起／定期考査の平均点50～60点の実現 (2) 教科の枠を越えた研究授業の実施、本時のねらいの明確化／単位未履修者の減少 (3) 評価の可視化の取組み、加点点評価等の実施 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ① 新入生の春の課題考査に基礎学力診断テストを実施して、生徒の基礎学力を外部指標で明確にして授業に活かした。1年時の4月から国数英の3教科で学び直しに取り組み、基礎学力の充実を図った。 ② 基礎学力の定着をテーマにして、6月と11月に4人ずつ研究授業を実施して、教科の枠を越えたグループで授業研究を行った。全教員が、6月と11月に授業アンケートを実施して授業に活かした。 ③ 毎時間のノート点検やプリント学習、提出課題などにおいて、検印などで生徒の取組に対する評価を、生徒に見える形で示して、授業への取り組む意欲の喚起に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。 ② 授業評価の結果を授業改善に活かすことができたか。 ③ 教員が授業研究に取り組み、可視化した評価をしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① A B C D ② A B C D ③ A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎力診断テストにより生徒の学力が外部指標により数値化され、今後の指導に活かすことができた。 ○ 履修登録に対して類型を設置することにより、生徒の進路希望と履修科目の整合を図ることができた。 ▲ 生徒の学習意欲を上げ、考査への意欲を高めるためにも、よりよい授業、評価方法の研究を進める。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学力に合わせた基礎学力を定着させるために、授業に主体的に取り組めるような授業方法の研究、環境整備に努める。 ・ 多様な生徒に対応するための学習内容、学習形態について研究し、取り組んでいく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・ 大変丁寧な指導がされていて良い。入学した生徒が、卒業できるよう今後も手厚く指導をお願いしたい
- ・ 生徒の質が多様であり、先生方は大変である。しかし、個に応じた指導も頑張ってください。

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談・特別活動・保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・年2回の迷惑調査により、最も多い迷惑行為は「授業中の私語」だった。学年が上がるにつれて、いじめに対する意識が改善した。具体的な情報把握に有用だった。 ・生活実態調査により、県全体の動向と比較することができた。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 学級担任・学年会・分掌との連携を密にした生徒指導を行う。 ◇ 地域社会の一員としての自覚を深め、主体的に判断し自ずからの行動に責任を持つとともに、自己指導能力を高める態度を育成する。 ◇ 自他の生命と人格を尊重し、偏見や差別に向き合う態度を涵養する。 ◇ 積極的に共感的な生徒理解に努め、予防的・開発的教育相談を推進。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会・生徒指導部会・各学年会・人権教育推進委員会 ・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 家庭との連携を密にして、全職員の共通理解共通行動のもと、自己指導能力の育成に努める。 (2) 共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。 (3) 自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。	(1) 端正な身だしなみ／遅刻者数は前年度比3割減／授業規律とユニバーサルデザイン／下校・交通安全指導によるマナー向上 (2) 迷惑調査の実施による評価／相談室・保健室利用状況 (3) 部活動の一層の活性化／MSリーダーズ活動／ボランティア活動の一層の充実と広報との連携	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1日あたりの平均遅刻者が、12月までで前年度比14.9人から12.9人に減少した。交通事故発生件数は、昨年度11件、今年度10件であったが、自転車同士の事故が目立った。 ② 保健室利用のルールを定め、真に利用の必要な生徒に配慮した。迷惑調査の方法を変え、より効果的な情報把握に努めた。専門医巡回相談、要特別支援生徒への対応、ユニバーサルデザインによる環境整備や授業展開を行った。人権啓発活動やコミュニケーション能力を高める活動を実施し、いじめ防止に取り組んだ。 ③ MSリーダーズを90名に増やし、活動回数を増やした。今年度は交通安全推進校として発表を行った。ボランティア活動に積極的に協力した。	① 遅刻者数が減少したか。交通事故件数が減少したか。 ② 生徒の把握に努め、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。 ③ 生徒が主体的に活動したか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○ 遅刻者数が、前年度より減少した。 ▲ ネットいじめやコミュニケーション能力不足による問題行動が発生した。 ▲ 学校の活性化に向けて、部活動への参加者を増やし部活動を活発にする。	
12 来年度に向けての改善方策案		

総合評価
A (B) C D

- ・ 携帯電話・スマホ利用の制限について生徒とともにルールづくりをする。
- ・ コミュニケーション能力を高める取組を発展させる。
- ・ 積極的生徒指導を展開し、居場所を提供して、道徳的実践力を高める。
- ・ 特別活動（部活動・生徒会）の活性化を図るとともに、校内美化の徹底を推進する。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・ かつての指導と違い、生徒に配慮した教育相談的な指導が大変良い。
- ・ 保護者が、生活指導のあり方を理解していない。生徒への対応だけでなく、保護者に理解していただけるような指導をすることが大切である。

【別添2】（様式例2）

平成26年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号	29
------	----

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望を持つ生徒に対するキャリア教育の一層の充実 就職内定率の向上 生徒に適した進路情報の提供 以上3点が求められている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会的・職業的自立に向けて必要な能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努めます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教務部長・生徒指導部長・進路指導部長・各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 総合的な学習の時間（不破スピリットタイム＝FST）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努めます。 (2) 就職希望者への積極的な支援に努めます。 (3) 4年制大学進学実績の向上を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) FSTの充実、キャリア教育アドバイザーの活用、インターンシップの推進 (2) ハローワークとの連携、面接・小論文指導を通して内定率100% (3) 補習、模試事前事後指導、個人懇談の充実 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ① FSTは、年間計画に基づき、組織的・系統的に実施することができた。「外部リソース活用研究事業」の指定を受け、新たな進路行事を企画することが可能となり、多様性が生まれた。キャリア教育アドバイザーによる求人開拓業務によって、新規求人を得ることができた。 ② 2社目以降の受験についてハローワーク大垣との連携を密にした。SPI2対策、岐阜経済大学と連携した面接指導等を実施した。2/10 現在内定率97.7% ③ 補習は出欠入力システムを作成し、担任が出席状況を把握しやすいようにした。FSTにおいて模試事前学習を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の共通理解のもと、組織的に取り組むことができたか。 ②外部リソースと目標を共有して連携することができたか。 ③生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○外部リソースと連携した多様な進路行事の実施、進路実現に向けた取組等を行い、一定の成果を上げることができた。</p> <p>○中堅私大への合格者の増加、一般受験者の増加等、進学意欲の向上傾向が見られた。</p> <p>▲第一次就職試験の内定率が想定を下回った。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 類型が意識できる進路行事を実施する。 企業との関係をよりよいものとするため、企業訪問を積極的に行う。 就職希望者向けの補習を充実させる。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成27年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」満足度（生徒89.4% 保護者90.3%評議員80%） 「学校は、生徒の進路希望に添った適切なアドバイスをしてくれる」満足度（生徒92.6%保護者88.9% 評議員80%） 生徒の進路意識の高揚に向けたより一層の取組を期待する。
--